



58

わたりがわだいにりよくち 渡川第二緑地

高知県中村市百笑町

中村市は高知県の西南部に位置し、清流「四万十川」に面する都市である。今から520年ほど前、応仁の乱を避けて関白、一条教房公が当地に移り住んで以来、土佐の国府として栄えてきた。一条公の京都への思慕の念から町並みも基盤の目を形成している。

〔文化・観光〕 為松公園、不破八幡宮、トンボ自然公園、幡多郷土資料館

渡川（四万十川ともよばれる）は四国第二の清流をもち、古くから地域住民に川の豊かさを与えてきた。中村市内を流れる渡川は、川幅がひろいのでその河川敷を利用し、市民の活動の場として公園を整備した。

表面は芝生を主体にアスファルト舗装やカラー舗装を施し、ゲートボール場、ソフトボール場、テニスコート、サッカー場、トンボの池が整備されている。老若男女が各種スポーツやコミュニケーションの場としてひろく活用している。また、年の瀬から正月にかけては色とりどりの凧が空を舞っている。

このように市民のふれあいの場として渡川と一体となった当緑地は、近隣の町の人たちにとっても憩いの場として幅ひろく親しまれている。

